

「会員短信 20」

「老いを見つめて」

井口夏子

七十歳を過ぎ、まだまだ若いと息巻いていた。実年齢より、見た目年齢マイナス十歳を目標に、スクワット、階段の上がり下がり、速歩など筋トレの毎日。

しかし、「継続は力なり」の呪文を唱えながら日々奮い立つも、体力が伴わない。理想と現実の乖離に自信を失う。ふうー。「もういいか」と諦めも早い。

外見は気にせず、内面を磨き自分自身を丸ごと素直に直視し、受け入れることにする。人生の老年期はのんびりと、カタツムリに成るとしよう!!

好きな俳句を嗜み、自由気ままに、人とは群れず、いつも上機嫌で毎日心地よく暮らして行こう。「願わくば花の下にて春死なん。その如月の望月の頃」。私も西行法師のごとピリオドを打てればと願っている。

何はともあれ、今日まで元気に生き延びてきた。健康に感謝!!

切手ほどの水着を着けて泳ぐかな

干柿の乳房ほどの柔らかさ

走ったら会いにいけそな月がある

群れ蜻蛉群れては何も残るまい

さまざまなことは幻色葉散る